

2 大学の社会貢献のための結節点

滋賀大学 理事・副学長 須江 雅彦

大学は社会のための仕組みの一つです。研究を通して新しい知識を生み出しつつ、教育などによりその成果を社会に広めるための機関なのです。滋賀大学は、教育研究の成果やその知的資源を、社会のために活動している他の様々な組織やその構成員の皆さまとの多様な連携を通して、お役に立て、開かれた大学として、社会の発展に貢献していきたいと考えております。

研究の成果を社会の抱える課題解決に結びつけていくことは重要な観点であり、また、社会で活躍する有為な人材の育成・高度化は大学の教育機能の発露でもあります。

今年度、滋賀大学は、現代社会にすでに存在し、また日々生成される多種多様で膨大なビッグデータから新たな価値の創造に取り組む人材を育成する、日本初のデータサイエンス学部を設置しました。これを契機として、教育学部・経済学部とも連携し、文理融合の大学として、新たな社会貢献の路を歩んでまいります。

Google の元 CEO のエリック・シュミットは、「私たちはビッグデータの時代にいる。ビッグデータはデータ分析を専門とする統計家（データサイエンティスト）が必要。データを良く分析できる者が勝利する。データは 21 世紀の刀であり、それを使いこなすのが「サムライ」である。」と述べています。

(We are in the era of big data, and big data needs statisticians. Those who can analyze it well will win. Data is the sword of the 21th century, those who wield it well, the samurai.)

私たち滋賀大学は、社会連携研究センターをいわば「知の結節点」として、社会の様々な課題に取り組む自治体・企業等やそれを構成する皆さまとの繋がりを深め、大学との連携を進めてまいります。

皆さまの幅広いご理解とご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。